1、 2 雑　9P

85

文藝 2月號

雑踏

阿部艶子

文藝
NO. 21
ホ 1
段 2
行 26
字 27

「殺してやる」「殺してやる」と彼女は大声で叫びながら走つてみた。彼女の声が人に聞えたかどうかわからないが、彼女はさう叫んでみるつもりで走りつづけた。空地を横ぎり、町角を曲り、賑やかな商店街も駆け抜けた。途中ですれ違ふ人は、彼女の眼から見れば、汽車から見る電柱のやうに後に消えて行く程であつた。まるで風のやうだ、と途中で思つたほど、彼女は早く走つてみた。

「殺す」とは誰のことだか、彼女にもよくわ~~それでも夫に追ひつく[illegible]~~からなかつた。夫を殺すのか。女を殺すのか。それとも自分か赤ん坊か。何しろ彼女は夫に追ひつきたかつた。夫が出かけてから、十五分もたつて、急に家を出て駆け出したのだから、いくら風のやうに走つても、追ひつくことはむづかしかつた。もう電車に乗つて行

3P　7